

平成21年 7月20日



しほり  
森づくり集団「**葉**」事務局通信 Vol.10号

【今月の活動報告】 【次回の活動予定】 【今月のレポート】 【お知らせ/募集】 【編集後記】



6月20日(土)三芳フィールドの住(虫)人

【今月の活動報告】

6月20日(土)10:00より15:00まで 三芳フィールド植生調査

参加者 / 緑川、武田、吉田(ひ)、北村(み)、北村(さ) (敬称略)

活動担当者 / 吉田(あ)

今回も晴れて夏日となりました。  
暑い中、皆さまお疲れ様でした。  
人の気持ちとは都合の良いもので、冬の寒い日には夏が恋しくなり、夏の暑い日には冬の寒さが恋しくなるものですね。  
今回の調査は、三芳フィールドを30mで区画を切りA区画として、その区画の調査を行いました。  
当日第1フィールドに集合して、  
午前中、ホームセンターに注文済みの物置を受け取り田村さんの敷地に搬入しました。

田村さんにご挨拶をしました。ころよ返答をいただき安堵しました。  
昼食後、植生調査をするためのルールを決めてから作業を行いました。

三芳フィールドの入口から右手方向(広い道路、マンションの方向です)へ 30m の地点でフィールドを区切り、入口からここまでを A 区画 とした。

今回はこの A 区画 の調査を行いました。

立ち入るのも嫌なほどのボサでしたので、ルールを決め除伐作業も行いました。

- ルール1 数本萌芽しているものは、1~2 本残して伐採する。
- ルール2 周りに同じ木があることを確認して除伐する。(種を減らさないため)
- ルール3 処理をする時間がないので、同じ方向に木を倒しておく。  
(隣接する狭い道と平行に倒す)

これらは、これからどのようにこのフィールドを仕上げていくのか、まだ決まっていないので、出現種数を変えないような方法を考えました。

その後、ラインセンサスによる植生調査を実施。



**キハダ**が確認されました。

この辺りでは珍しいです、誰かが薬用に植えたのでしょうか。

#### **クマヤナギ**

この辺りでは珍しいかも・・・



**スイカズラ**の葉は変身します。

下富同様、**キンラン**・**ギンラン**・**クモキリソウ**も確認されました。

確認種数は **69 種**でした、スゴイですね。  
お疲れ様でした。

自然回復度調査担当 吉田あ

7月5日(日)10:00より15:00まで

三芳フィールド植生調査

参加者 / 小林、神座、武田、渡部、吉田(あ)、豊島、土金、杉山、神座(み)、  
谷(三芳町)(敬称略)

活動担当者 / 吉田(ひ)、緑川

#### 活動内容 三芳フィールド植生調査(B区画)

植生調査実施に先立ち、特定外来生物除去ご担当の豊島さんの指導のもと三芳フィールドに侵入しているエイリアンたちの駆除活動を実施しました。

エイリアンたちの正体は、オオブタクサ、ブタクサ、セイタカアワダチソウ、などです。既に人の背丈以上に成長したオオブタクサなどを僅かな時間で抜き取っただけですが見違えるほど綺麗になりました。

草むしりも同様ですが、駆除したい植物が結実する前に抜き取ることは同じ作業でも効果が大きく違います。

外来種駆除の後は、前回に引き続き三芳フィールドの植生調査です。

30m毎に区画を区切って出現種を確認します。面倒な作業ですが、作業の実施前と実施後の違いを把握するためには生息種を確認しておかなくては比較することができません。

複数の個体が生息する種は、代表となる個体を残して刈り払います。

会員の方たちには確認種リストを後日メールで配信いたしました。

確認種数は **67種**でした。

エイリアンたちの駆除活動



オオブタクサ

ヤグラタケ



森林保全活動担当 吉田ひ

## 【次回の活動予定】

8月1日(土)9:30より

川島町 平成の森

森作り集団「菜」 川島町自然体験教室

【対象】小学生 15名程度

【時間】午前 9:30 ~ 12:00

川島町の小学生を対象に、自然体験教室を行います。

森林保全活動担当 吉田ひ

8月2日(日)10:00より

第3フィールド or 三芳フィールド作業予定

暑い最中の作業になります。

水分と、休憩をたくさんとりながら作業を行いましょ。

参加される方は、事務局まで申し込みをお願いします。

森林保全活動担当 吉田ひ

## 【今月のレポート】

今月は、副理事長の神座さんよりレポートを頂きました。

# カラムシ異聞

神座 侃大

カラムシ(草麻)はイラクサ科の多年草、高さ1~2メートル、茎・葉柄に短毛密生、葉は互生、広卵形、先は尖り鋸歯があり、裏面は綿毛にて白色、綿毛のないものをアオカラムシと言う。

カラムシは、江戸期越後は塩沢の鈴木牧之が「北越雪譜」の中で「雪中に糸となし、雪中に織り、雪中に洒(そそぎ)、雪上にさらす」と表した越後の銘布、越後上布や縮のもととなる。カラムシの茎の皮をむき、根元から爪の先で裂いて髪の毛ほどの太さにし、つないでいく。縞模様に藍染めし、居座り機で織る。1日15センチ程しか織れない。織り上がった布は雪晒しする。カラムシの糸は細く、極めて乾燥に弱いので、全ての工程は湿度の高い雪で行う。居室内での作業でも火気厳禁。雪ありて越後上布ありと言われる所似である。

昭和30年無形文化財に指定され、現在上物の価は、1千万円を越える。然し糸づくり、雪晒しの出来る方は、各々一人だけだと聞く。「文化財というのは、日常ではないということです」とは現地からの言葉である。

資本主義のもと、大量生産、大量消費、大量廃棄の経済構造により、手作業による物造りは、ほとんど全て、伝統工芸という壁の中に塗り込められてしまった。さまざまな伝統工芸は、後継者もなく、培い鍛えられた技は、歴史のなかに消えさろうとしている。現在の経済構造から産み出されるものは、ほとんどがゴミであろう。私自身の持物のなかで、後世に残したいと思えるものは、何ひとつとしてない。私自身を含め全てゴミである。これは嘗々として先人が築きあげてきた文明、文化の衰退に他ならない。世の行先が見えるようである。

さて、これからは、下仁田の母方の従兄から聞いた話。10年程前に、従兄が弟と妹を伴って、戸隠神社へ参拝した時のことを思い出し、奥社に至る、鬱蒼たる杉並木の参道でカラムシとササを採り、訝る弟や妹にかまわず奥社へ持参した。奥社に着くと、そこに居合わせた老齢の宮司へ、祖父がしたようにカラムシとササを台にし、寄進の包みを上に乗せ差し出した。宮司は、手元と顔を見比べると、しばらく待つように伝え、どこかへ出て行った。小半時も待たされ、飽きてきたころ、身支度をした宮司は三人の従者を伴って戻ってきた。社の中へ案内されると、三人の従者は太鼓や笛を奏で、宮司は祝詞を高々とあげ、従兄達三人は、神妙な顔で祝詞を聞いた。

戻って調べてみると、戸隠神社で太鼓や笛を奏でながらの祝詞は、少なくとも十万円のお包みでないと適わないとのこと。ちなみにこの時の従兄のお包みは、一万円であった。カラムシとササの威力、斯くの如し。

## 【お知らせ/募集】

### 参加者募集のお知らせ

森づくり集団「<sup>しほり</sup>菜」は、毎月第1週日曜日に所沢下富のくぬぎ山及び三芳町で里山の手入れをおこなっております。  
会員のほとんどが森林インストラクターの資格をもち、初めての方には危険防止のための注意事項、作業方法を丁寧にご指導いたします。  
私たちは10年以上にわたり目的に応じた森の手入れをおこない、経過を観察したり、新しい発見、新しい取り組みを楽しんでいます。  
また、植物の観察会、子供のための観察会、森の手入れ研修会などの企画計画していますので、興味のある方は下記事務局にご連絡下さい。

事務局



三芳フィールドの  
ツルウメモドキ

## 編集後記

猫の額ほどの庭に毎年夏野菜を作ることが楽しみで、今年も3年続けてトマトを選んで楽しんでいます。花が付く前から蝶や蜂等の飛来を待ち望んでいますが、なかなか目にする機会がありません。そしていつの間にか花が咲きすでに実が付いています。今年こそはゆっくりと観察しようとしたのですが、やはりすでに実が付いていました。小学校の夏休みの観察を見習って毎日、同じ時間にノートを取ればきっとおもしろいでしょうね！ 来年はきっと…と遠い期待です。

先日スズメバチが死んでいました。当然のことなのですが、スズメバチが死んでしまうという事に驚きました。何が原因かわかりませんが、アリに引かれていくのを遠くからながめていました。

事務局 緑川

## 季節の言葉

**立秋**(りっしゅう)・・・二十四節気の一つで8月7日ごろ。暦の上ではこの日から秋、実際には1年で一番暑い頃。

**処暑**(しょしょ)・・・二十四節気の一つで8月23日ごろ。夏の暑さがおさまる頃。

**油照**(あぶらでり)・・・夏の薄曇りで無風、じっとり汗ばむような蒸し暑い天気。油も煮えたぎる程の暑さ。

**空蝉**(うつせみ)・・・蝉の抜け殻のこと。

**草いきれ**(くさいきれ)・・・夏の暑い日差しの中、草原に立ち上がるむっとする熱気。

**涼風**(すずかぜ)・・・真夏に吹くさわやかな風のこと。

あ

森づくり集団<sup>しほり</sup>「菜」事務局  
アドレス m-mido@tcat.ne.jp  
事務局長 緑川睦子